

金融機関の顧客発掘支援

フィンテックガーデン

数十万社の財務AI分析 融資案内を通知

フィンテックガーデン（東京都千代田区、義永洋土理事長、03・6260・9525）は、金融機関による融資判定を人工知能（AI）で支援し、新規顧客の発掘を自動化する業界初のフィンテック（金融とITの融合）サービスを10月に始める。市販のクラウド型会計ソフトとの連携により、数十万社を超える企業の財務データをAIで分析し、融資条件を満たすか判定するシステムを開発。地方銀行や信用金庫向けに販売する。

サービスの名称は「ローズガーデン」。ロズガーデンは会計ソフトとの連携により、財務内容が融資条件を満たした企業をシステム上で探し出し、融資案内を通知する。融資条件となる売上高や売掛金などは金融機関が設定するが、企業側が融資案内を承諾して「同意ボタン」を押すまでは金融機関からは個別の企業名は見えない。同意後は当該企業の概要や数年分の財務諸表などが開示され、金融機関と企業とが個別での対面交渉に入る。

外れが少ない」（フィンテックガーデン）。会計ソフトから得られる生データにより、当該企業の資金繰りや他行からの借入れも分かる。実店舗を持たずにインターネットオークションやシェアオフィスなどで事業をしている隠れた中小・零細の優良の掘り起こしなど、ネット社会の新たな資金需要にも対応で

きる。
すでに信用金庫と第二地銀の計3行が採用に合意。会計ソフトは第一弾としてフリーウエイジャパン（東京都千代田区）がロズガーデンとの連携を決定。さらに参加を募っていく。

ターゲットとする地銀や信金は、融資先の発掘に多くの労力と時間を費やしている。ロズガーデンを介せば「基本的な融資条件を満たした状態からの交渉となるため、当たり